

第 2 回 まちだの新たな学校づくり審議会 議事録 (第 2 回 町田市立学校適正規模・適正配置等審議会)

開催日時	2020 年 5 月 25 日 (月) 18:30~19:32	
開催方法	リモート会議	
出席者 (敬称略)	委員	佐藤圭一、丹間康仁、遠藤誠徳、小崎公平、安達廣美、中一登、武藤雄丈、大石眞二
	事務局	北澤学校教育部長、小池指導室長、田中教育総務課長、是安教育総務課担当課長、浅沼施設課長、田村学務課長、有田保健給食課長、林教育センター所長 (教育総務課総務係) 鈴木担当係長、中野主任、小形主任、京増主任
傍聴者	— ※リモート会議	
審議内容	まちだの新たな学校づくり審議会の審議事項等について	

■議事内容 (敬称略)

1 審議会 開会

佐藤会長 皆さん、こんばんは。本日も、お忙しい中、まちだの新たな学校づくり審議会にご参加いただき、ありがとうございます。

本日も、第 1 回審議会と同様、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、リモート会議で開催したいと思います。

開会に先立ちまして、審議会条例に基づき、いつもどおり、出席者数の確認をいたします。本日も、委員 8 人、全員が出席していることを確認しましたので、第 2 回まちだの新たな学校づくり審議会をここに開催したいと思います。よろしくお願いいたします。

2 配布資料の確認

佐藤会長 それでは、審議に先立って、事務局から配布資料の確認をお願いします。

教育総務課 教育総務課担当課長から確認をお願いしたいと思います。

担当課長 資料 1 「第 1 回まちだの新たな学校づくり審議会の議事整理について (案)」

資料 2 「町田市立学校の新たな通学区域のあり方検討部会における検討結果について」

資料 3 「まちだの新たな学校づくりに関するアンケート調査」

※資料 3 では「南地区」をモデルとして示しています。

資料 4 「町田市立学校の新たな通学区域 (アンケート調査案)」

以上の 4 点になります。ご確認をお願いいたします。

3 第 1 回審議会の振り返り

佐藤会長 ありがとうございました。それでは、これから議事を進行していきたいと思えます。

まず、次第の 1 番目にあります「第 1 回審議会の振り返り」を進めていきたいと思えます。

振り返りに当たって、事務局から第1回の議事を整理していただき、内容についてのご説明をお願いします。

教育総務課
担当課長

それでは、教育総務課担当課長から説明させていただきます。

まず、第1回審議会の議事録についてですけれども、こちらは現在作成中でございます。事務局で作成後、委員の皆様にご確認をいただきたいと思っております。

それでは、事務局から資料1についてご説明いたします。

資料1、「第1回まちだの新たな学校づくり審議会の議事整理について（案）」をご覧くださいと思います。資料1は、第1回まちだの新たな学校づくり審議会において審議した内容のうち、認識が一致した事項について整理しましたので、提案いたします。

項番1をご覧くださいと思います。項番1では、「（仮称）町田市新たな学校づくり推進計画」を調査審議するに当たっては、2020年1月に審議会から教育委員会へ答申し、その答申に基づきまして2020年3月に教育委員会が決定した「町田市立学校の適正規模・適正配置の基本的な考え方」に基づいた調査審議を行うことを確認しております。

次に項番2では、まちだの新たな学校づくり審議会における審議事項についてまとめております。推進計画の構成については、枠内の(1)から(5)の内容で調査審議を進めるものとなりました。このうち、(1)今後の町田市立学校を取り巻く環境変化、(3)町田市立学校の新たな学校づくりの基本的な考え方、(5)町田市立学校の新たな通学区域について審議会で調査審議するものとなりました。

次に項番3「まちだの新たな学校づくりに関するアンケート調査及び意見募集」の実施をご覧ください。項番3では、まちだの新たな学校づくり審議会における審議事項についてまとめております。推進計画の構成につきましては、枠内の(1)から(5)の内容で調査審議を進めるものとなりました。そのうち(1)今後の町田市立学校を取り巻く環境変化、(3)町田市立学校の新たな学校づくりの基本的な考え方、(5)町田市立学校の新たな通学区域について審議会で調査審議するものとなりました。

次に項番4、「まちだの新たな学校づくり審議会検討部会の設置及びスケジュール」をご覧ください。項番2に記載しております審議事項のうち、(3)町田市立学校の新たな学校づくりの基本的な考え方及び(5)町田市立学校の新たな通学区域についてはより丁寧な調査審議を行うために、枠内に記載の検討部会を設置して検討するものとなりました。また、審議スケジュールについては、事務局から提案のあったスケジュールで調査審議するということになりました。

次に項番5、「今後の町田市立学校を取り巻く環境変化」についてをご覧ください。推進計画を調査審議するに当たって、将来の変化を予測することが困難な時代においても、その環境変化や学校教育に係る諸制度の改正にも対応することができる新たな学校づくりを進めるために、枠内に記載しております(1)から(7)の環境変化を中心として調査審議するものとなりました。

資料1の説明は以上となります。よろしく申し上げます。

佐藤会長

ご説明ありがとうございました。ご承知のように、審議会は1か月遅れてスター

トしております。日程が立て込んでおります。議事録は現在作成中とのことですので、出来上がり次第、各委員に送付し、確認させていただきたいと思っております。

そして資料1では、第1回審議会での私たちの議論の結果を整理して提案していただきました。

いつもどおり、提案内容につきまして各委員からご意見がございましたらマイクをオンにして発言をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。意見のある委員の方、よろしく申し上げます。

各委員

「異議なし」の発言あり

佐藤会長

異議はありませんでした。それでは、資料1で整理した内容を基に調査審議を進めてまいりたいと考えます。

4 町田市立学校の新たな通学区域のあり方検討部会の検討報告

佐藤会長

それでは次に、項番2「町田市立学校の新たな通学区域のあり方検討部会における検討結果報告」について調査審議したいと思います。

「町田市立学校の新たな通学区域のあり方検討部会」は、「まちだの新たな学校づくりに関するアンケート調査」案を検討するために設置した部会でございます。

その検討結果について事務局から説明いただいた上で、部会長を務めていただいた丹間委員から補足説明がありましたら、発言をお願いしたいと思います。

教育総務課

教育総務課担当課長から、資料2を使ってご説明させていただきたいと思っております。

担当課長

資料2「町田市立学校の新たな通学区域のあり方検討部会の検討結果について」をご覧ください。

こちらでは、審議会が設置した「町田市立学校の新たな通学区域のあり方検討部会」において、5月13日、20日の2回にわたって「まちだの新たな学校づくりに関するアンケート調査」の内容について検討を行った結果を整理しているものです。

項番1をご覧ください。「第1回検討部会の検討結果」の(1)「町田市立学校の新たな通学区域（アンケート調査案）編成の考え方について」をご覧くださいと思います。審議会の審議事項である「町田市立学校の新たな通学区域」については、第1回審議会において6月に実施を予定しているアンケート調査において、保護者や市民の皆様のご意見を確認した上で調査審議するものとなりました。そのご意見を確認するために実施するアンケート調査において示す「町田市立学校の新たな通学区域（アンケート調査案）」については、2020年3月に策定した「町田市立学校の適正規模・適正配置の基本的な考え方」に基づいて、別紙1の考え方で編成するものとなりました。

別紙1についてご説明いたしますので、1枚おめくりいただきまして、右上に資料2（別紙1）と書いてある資料をご覧くださいと思います。別紙1では、「町田市立学校の新たな通学区域（アンケート調査案）編成の考え方」について記載されています。1の「新たな通学区域（アンケート調査案）編成の考え方」として、検

討部会では、2020年3月に教育委員会で決定した「町田市立学校の適正規模・適正配置の基本的な考え方」に基づいて、「町田市立学校の新たな通学区域（アンケート調査案）」を編成することとしました。

2では、「新たな通学区域（アンケート調査案）の示し方」として、新たな通学区域（アンケート調査案）は、長期的な児童・生徒数の減少及び学校施設の老朽化という環境変化に対応した適正規模・適正配置を実現する必要があることから、2040年度における通学区域を示すものとし、「堺地区」「忠生地区」「町田地区」「鶴川地区」「南地区」の5地区に区分して示すものとしてしました。

別紙1の説明は以上となりますので、資料2にまたお戻りいただきたいと思いません。

資料2の項番1の(2)「『町田市立学校の新たな通学区域（アンケート調査案）』編成にかかる検討課題について」をご覧くださいと思います。「町田市立学校の新たな通学区域（アンケート調査案）」を編成するに当たっての適正規模の実現に向けた主な検討課題について、別紙2の内容を踏まえて編成するものとしてしました。

ただし、児童・生徒数や学級数の状況、通学区域統合の検討対象となる学校が、回答者が分かりやすいように端的に示す必要があることを確認しました。

別紙2についてご説明いたします。めくっていただきまして、今度は右上に資料2（別紙2）と書いてある資料をご覧くださいと思います。別紙2では、「町田市立学校の新たな通学区域（アンケート調査案）」編成に係る検討課題を5地区に区分して示しております。1ページ目に記載しています南地区で読み方をご説明いたします。

まず、(1)児童・生徒数及び学級数等の状況についてご説明いたします。アの小学校、イの中学校共に、児童数生徒数及び学級数には、2020年度、2030年度、2040年度の時点の数値を記載しております。2020年度の数値は、2020年4月7日時点における数値、2030年度、2040年度の数値は、2019年度に教育委員会で行った児童・生徒数及び学級数の推計結果となっております。

小学校においては、適正規模の範囲は1校当たり18から24学級となりますが、18学級未満の場合には黄色、24学級を超える場合には青となっております。また中学校においては、適正規模の範囲は1校当たり12から18学級となりますが、12学級未満の場合に黄色、18学級を超える場合には青となっております。

学級数の右側にあります建築情報については、最も古い校舎を基準とした建築年度と建築年度から2020年度までの経過年数を記載しています。

一番右側にあります通学区域となる町区域の欄には、各小・中学校の通学区域となっている町区域を記載しています。例えば、金森3丁目の一部といったように、「一部」と記載がある場合については、金森3丁目全域のうち、一部が南第一小学校区の通学区域になっており、金森3丁目を通学区域としている小学校がほかにもあるということを示しています。

具体的にご説明いたします。南地区のア、小学校の表の一番上にあります南第一小学校の行をご覧くださいと思います。その中で、一番右側にあります通学区

域となる町区域をご覧いただきたいと思います。現在、南第一小学校の通学区域で、「金森4～6丁目」「南町田1～2丁目」と記載されている箇所は、その全域が南第一小学校の通学区域であることが示されています。また、「金森3丁目の一部」、「南町田3～4丁目の一部」と記載されている箇所は、この全域のうちの一部が南第一小学校の通学区域であることが示されています。児童・生徒数及び学級数等の状況の表の見方の説明は以上となります。

続きまして、資料2（別紙2）の2ページ目をご覧いただきたいと思います。（2）「適正規模の実現に向けた主な検討課題について」になります。各地区の学校ごとの適正規模の実現に向けた主な検討課題を記載しています。こちらも南地区を例にご説明いたします。

(2)①小規模校化への対応については、今後、児童・生徒数、学級数が少なくなっていく地域及び学校名を記載しており、今後、小規模校化する見込みに対して対応する必要があるということを示しているものでございます。

続いて、②大規模校化または教室数不足への対応についてです。今後、児童・生徒数、学級数が増加していく地域及び学校名を記載しており、今後、大規模校化する見込み、または教室数が不足する見込みに対して対応する必要があることを示しているものです。

続いて、③地区内における児童・生徒数の偏在についてです。ここでは、つくし野小学校が2020年度において12学級であるのに対し、南つくし野小学校が22学級であり、今後もその偏在が継続する見込みであるということから対応する必要があるということを示しているものでございます。

続く(3)地区の学校沿革（1945年度以降）では、1945年度以降から現在の小学校と中学校となるまで学校の沿革を記載しております。

以上が資料の見方になります。今は南地区を例に説明いたしましたが、南地区以降、鶴川、町田、忠生、堺の各地区についても記載しておりますので同様の見方となります。別紙2の説明は以上となります。

またお戻りいただきまして、資料2の1の(3)になります。「まちだの新たな学校づくりに関するアンケート調査」の構成についてご説明いたします。こちらについては、検討部会委員から提案のあった構成に基づくものとし、その素案を示した上で検討するものとしたしました。

続いて、2の「第2回検討部会の検討結果」をご覧ください。(1)「町田市立学校の新たな通学区域（アンケート調査案）」について、基本的な考え方に基づいて編成した「町田市立学校の新たな通学区域（アンケート調査案）」を基に、保護者や市民のご意見をお聞きした上で、2020年10月以降の審議会において町田市立学校の新たな通学区域を調査審議するものとしたしました。

また、10月以降の調査審議に向けて、適正規模を実現する視点から通学区域の統合検討対象校となっている小中一貫ゆくのぎ学園について、町田の未来の子どもたちによりよい教育環境を整備する視点から教育委員会において総括することを確認しました。

続いて、(2)「まちだの新たな学校づくりに関するアンケート調査」についてご説明いたします。アンケート調査票の素案について、アンケート調査の回答率の向上を図りながら回答者が新たな学校づくりに期待感を持って回答していただくために、1ページ目の一番下に記載しています①調査名、次のページに記載しております②アンケート調査票の構成について、③情報提供の文案について、④「町田市立学校の新たな通学区域（アンケート調査案）」の示し方について、⑤設問についての①から⑤までのそれぞれに記載している内容を見直した上で第2回審議会において審議することを確認しました。

1つ前のページに戻っていただきまして、①調査名ですが、調査名につきましては、「まちだの新たな学校づくりに関するアンケート調査」とした上で、回答者が新たな学校づくりに期待感を持って回答していただけるようなサブタイトルをつけることについて見直すこととしました。

次のページの一番上にございますアンケート調査票の構成についてですが、ア、新たな学校づくりに対する期待を持っていただくために「(仮称) 町田市新たな学校づくり推進計画」を、調査票案の1ページ目と一体で文案を見直すこと、イ、「児童・生徒数の減少」「学校施設の老朽化」の情報提供をコンパクトにすることについて見直すこととしました。

続いて、③情報提供の文案についてですが、ア、主旨を損なわない範囲で文章を簡素化すること、イ、イラストで表現することができるものは、可能な範囲でイラスト化すること、ウ、Webフォームから回答することができない方への案内を加筆すること、エ、全般的な文言整理を行うことについて見直すこととしました。

続いて、④になります。「町田市立学校の新たな通学区域（アンケート調査案）」の示し方については、回答者が見るべき箇所が分かりやすくなるように工夫することについて見直すこととしました。

⑤設問については、ア、回答者が回答しやすくなるように表現を工夫するとともに、新たな学校づくりに対する期待を回答しやすくなるような設問文とすること、イ、全般的な文言整理を行うことについて見直すこととしました。

資料2の説明及び町田市立学校の新たな通学区域のあり方検討部会の検討結果の報告は以上となります。よろしくお願いたします。

佐藤会長

ありがとうございました。ただいま事務局から、資料2のとおり、検討部会の報告をいただきました。

ここで確認をいたします。第1回検討部会ではアンケート調査でご意見をお聞きする「新たな通学区域のアンケート調査案」を編成するためのルールと適正規模の実現に向けた課題を確認いたしました。また、実施するアンケート調査票の構成について確認したことをご報告いただきました。

第2回検討部会、5月20日水曜日ですけれども、第1回検討部会で確認した「新たな通学区域のアンケート調査案」を編成するためのルールに基づいて編成した通学区域案について、保護者や市民のご意見をお聞きした上で、2020年10月以降の審議会において町田市立学校の新たな通学区域を調査審議するものとしました。

また、「まちだの新たな学校づくりに関するアンケート調査」については、検討部会が示した素案に対して、資料2で整理していただいているような内容を修正した上で、今回の審議会で審議するものとしたことをご報告いただきました。

それでは、丹間委員、補足説明がありましたらお願いいたします。

丹間委員

町田市立学校の新たな通学区域のあり方検討部会の部会長を務めさせていただきました丹間です。各回とも、非常にじっくりと時間をかけて具体的な検討を進めることができたと考えています。非常に短期集中型ではあったんですけども、その中で様々な立場や視点から部会員の方々に意見を出し合っていただきました。具体的な検討部会の検討結果については、先ほど教育総務課担当課長からご説明いただいたとおりです。

私からは、この調査案の位置づけについて補足をさせていただきたいと思えます。

1つ目は、資料2の1の(1)2行目にありますように、このアンケート調査案で示す新たな通学区域というのは、今後、保護者や市民の皆様のご意見をいただくためのものだという事です。この点をよく確認しておきたいと思いました。部会の中でも、この通学区域の案自体に様々な意見が出るような状況もありましたが、それを部会員や審議会委員だけで考えてしまうのではなく、第1回審議会でも確認したとおり、あくまでもこのアンケート調査の結果を我々としては重視していかなければならないということで、その案となるものを今回お示しすることができたと考えています。

それから2つ目は、この審議会では学校統廃合は目的ではないということは確認しながらも、しかし、学校統廃合から目を背けることなく議論していくことを目指してきました。そういう意味では、今回、通学区域の変更または学校統廃合を手段とした具体的な通学区域の案を地図の上で示すことができたと考えています。これによって、ご回答いただく保護者、市民、それから教員の方々が、より実感を持ったうえでご意見を出していただけるのではないかと期待をしているところであります。

そして、資料2の2の(2)、1ページの一番下の行ですけれども、期待感を持って回答していただきたいということも、部会の議論の中では非常に重視したところがあります。20年後までを見据えた学校のあり方ですとか、教育環境の整備、そして子どもたちの登下校の姿を考えていただく上で、20年という大きな時間がありますので、そこをぜひ保護者、市民、教員の方々に、他人事ではなく自分事で考えていただきたいということで、どうすれば期待感を持って考えていただくことができるかについて議論になったと思います。検討部会での検討結果に関する補足は以上であります。

佐藤会長

丹間委員、補足説明ありがとうございました。それでは、ご参加していただいた各検討部会員からご意見を賜りたいと思います。マイクをオンにして発言をお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

各委員

「異議なし」の発言あり

それでは、資料2で整理した内容を踏まえて、次の審議事項に移りたいと思います。よろしく申し上げます。

5 まちだの新たな学校づくりに関するアンケート調査（案）について

佐藤会長 それでは次に、項番3「まちだの新たな学校づくりに関するアンケート調査（案）について」調査審議を進めてまいりたいと思います。

 項番2で確認した内容を基に案をまとめていただいていることと思いますので、事務局から説明をお願いいたします。

教育総務課 教育総務課担当課長からご説明させていただきます。資料3になります。

担当課長 では、資料3の「まちだの新たな学校づくりに関するアンケート調査」をご覧ください。調査票は「堺地区」「忠生地区」「鶴川地区」「町田地区」「南地区」と5つの地区に分けて作成いたしますが、今回の審議会では「南地区」をモデルとしてお示ししております。

 事務局からは、5月20日に開催した「町田市立学校の新たな通学区域のあり方検討部会」で論点になった事項を中心にご説明させていただきます。

 まず、1ページ目はアンケート調査のご案内のところをご覧ください。検討部会において、児童・生徒数の減少ですとか学校施設の老朽化といった暗い印象を前面に出すよりも、統廃合をきっかけにこんないい学校になるんだという将来の夢を前面に押し出したほうがいいのではないかというご意見を多くいただいたと思います。

 その一方で、児童・生徒数の減少や学校施設の老朽化といった環境変化をきっかけに学校統廃合の議論を行っている側面もございますので、その環境変化から目を背けることもできないので、今回の文案では、前回の文案で強く出ていた児童・生徒数の減少や学校施設の老朽化のトーンを抑えまして、新たな学校づくりへの期待が膨らむような文案に加筆しております。

 また、新たな学校が町田の未来の子どもたちだけではなく、地域にとっても新たな財産となる施設になることを強調した調査票のサブタイトルを加筆しております。

 また、新たな通学区域や質問内容にご関心のある回答者が、該当箇所をすぐにご覧いただけるように、このページの一番下に通学区域と質問事項が掲載されているページをご案内しております。

 続きまして、2ページ目をご覧くださいと思います。こちらは、検討部会でご議論いただいた際には児童・生徒数の減少を表す資料を掲載しておりましたけれども、新たな学校づくりに対する期待を前面に押し出すために「（仮称）町田市新たな学校づくり推進計画」の概要をつかむための資料を2ページ目に移動させました。

 また、内容についてもアンケートを回答するために直接必要のない情報の掲載は見送り、新たな学校づくりに対するイメージが膨らむような他の資料で使用しているイラストを追加しております。

続きまして、3ページ目になります。このページは、これまで2ページに分けていたんですけども、「児童・生徒数の減少」と「学校施設の老朽化」という2つの環境変化について、委員のご意見も踏まえてグラフと文章をコンパクトにまとめさせていただいております。

続いて、4ページ目、5ページ目になります。委員のご意見を踏まえまして全体の構成をコンパクトにしたことで、4ページ目から新たな通学区域のアンケート調査案のご案内に入ることができるようになりました。

4ページでは、委員から、回答者がお住まいの地域の通学区域が変更されるのか確認することが難しいのではないかとのご指摘を受けておりましたので、中段にある「町田市立学校の新たな通学区域（アンケート調査案）の読み方」について、資料の読み方の手順が分かるように修正をさせていただいております。今回の調査票では、5ページに掲載している「通学区域変更の検討対象となる町区域一覧表」と4ページに掲載している「町田市立学校の新たな通学区域（2040年度）一覧表」で、お住まいの地域における通学区域の変更または通学区域統合の検討対象となっているか確認した上で、6ページ、7ページの地図でその変更箇所を確認するという手順をご案内しています。

続きまして、6ページ目、7ページ目をご覧くださいと思います。こちらの通学区域図については、他地区との関係を分かりやすくするために表示する情報を整理させていただいております。南地区以外の通学区域の情報については、資料4がございますので、そちらをご覧くださいと思います。

続きまして、8ページから10ページの質問事項になります。こちらをご覧くださいと思います。8ページ目は変更ございませんでした。

9ページ目以降の質問事項については、回答者が答えやすくするために設問数、それから構成を整理した上で、回答者が答えやすくなるよう表現を工夫させていただいております。

特に10ページ目にあるんですけども、「町田市立学校における新たな学校づくりについて」は、保護者が自由な発想で新たな学校づくりに対する期待を表せる設問がいいのではないかとのご意見がございました。ただ、例示がないと何を書いていか分からないという保護者もおられると思いますので、設問の構成を整理した上で、問8について、委員からご発言があったICT技術の進歩だけでなく、今後期待されている地域の核となる学校づくりを示唆した例示を加えた上で、新たな学校づくりに対する期待を表現できる設問といたしました。

また、学校統廃合を含めた通学区域の見直しに反対の立場の方もおられると思いますので、そのようなご意見をお持ちの方が自由にご意見を述べられるよう問9の表現を整理いたしました。

また、設問の最後にWebフォームからの回答をご案内しているんですけども、委員からWebフォームにアクセスできない方が書面で回答することができる旨を案内したほうがよいのではないかとのご意見がありましたので、そちらを踏まえまして、表現を追加しております。

事務局からの説明は以上となります。

佐藤会長

ありがとうございました。

ただいま事務局から、まず資料3及び4の内容についてご説明がありました。前回の部会の我々の意見を随分反映していただいていると思います。

この事務局からの説明について各委員の皆様にご意見を伺いたいと思います。調査票案の審議に入る前に、私から調査票案のまとめ方について提案させていただきます。6月にアンケート調査を実施することを予定していることから、本日皆様から出されたご意見を基に調査票案をまとめていきたいと考えます。ただ、審議の時間も限られております。文言が細部まで固まらなかった場合は、大変恐縮ですが、私にぜひ一任していただきたいと思います。皆様からのご意見を調査票案に反映させましたら、皆様にご確認いただき、修正案にご異議がなければその内容をアンケート調査票とさせていただきます。

ただいま提案させていただきましたことにつきましてご異議はございますでしょうか。

各委員

「異議なし」の発言あり

佐藤会長

ありがとうございます。

それでは、そのように調査票をまとめていきたいと考えます。

それでは、ただいま事務局から説明があった内容を基に意見交換をしてみたいと思います。

いつもどおり、保護者代表の委員、教員代表の委員、町内会・自治会代表の委員、そして丹間委員の順番に指名していきますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、遠藤委員、お願ひします。

遠藤委員

よろしくお願ひします。前回の話し合いを基にアンケート調査をすごく分かりやすく、そして、僕も望んでいたんですけども、アンケートの本題に入るまでの導入も大分簡単にまとめていただいたので、とてもアンケートに入りやすくなったなと感じています。

細かい点なんですけれども、サブタイトル、この間議論に上がった部分なんですけれども、せっかく町田には「町田っ子」という特有の言葉があるので、「まちだの未来の子ども達」という表現よりは、「未来の町田っ子のために」という表現のほうが町田らしくていいのかなと感じました。

佐藤会長

遠藤委員、ありがとうございました。

それでは、小崎委員、よろしくお願ひします。

小崎委員

改めまして、こんばんは。アンケートも非常に整理されてよかったと思います。問8と問9の作りが変わったと思ひまして、その整理を確認したいと思ひなんですけれども、問8では、先ほど説明があったように、前向きな問いかけということだと思ひています。ここは結構何を言ったらいいのかというのが、ずっと質問の中で、皆さん、答える側としては考えるところだと思ひなんですけれども、去年のアンケートでもずっといろんなところに同じように答える傾向があつて、思いがいろんなと

ころで語られるアンケートになりがちだと思うんです。

そのときにどこまで答えたらいいのかということを示唆するということであれば、問8の一番最後のところで「新たな学校づくりの取り組み」というふうな非常に分かりやすいようで分かりにくい、どこまで言ったらいいのか、ここで自分が意見を述べていいのかというのがちょっと分かりにくいのかなと。

こちらの委員には町内会の代表の方が参加しているわけですが、恐らく問8というのは新たな学校づくりという言葉の中に地域コミュニティというものが入ってきているんじゃないかなと。

恐らく将来的にはICTの技術進歩による学習内容の方法の変化だけではなく、学校を中心とした地域コミュニティの再編というのが課題になってくるんだろうなと思うんです。だとすれば、そこで、問いかけの中で「町内会などの」とか、もう少し広げたことを意識して答えてもらっていいような設問にちょっと変えたらいいのかなと思うんです。

事務局の方に聞きたいんですけど、この設問の問いかけにはそういうものも入っているんでしょうか。私は、ニュアンスとしてはあるんですが、言葉としてちょっと足りないので、設問としては、新しい学校をつくっていく中で、現在でも地域の防災拠点であったりするというんですけども、20年後というのはもうちょっとファンクションとして学校自体が地域に開かれたものになっていくだろうと思うんです。そういったことに対する将来的な希望であったりというのをもう少し具体的に書いたほうがいいんじゃないかなと思いました。

佐藤会長
教育総務課
担当課長

事務局、今の小崎委員に対する返答はございますでしょうか。お願いします。

今、小崎委員がおっしゃっていたような町内会とか、地域に開かれたといったニュアンスも含めてもいいと思いますので、その辺はご議論いただければなと思います。

佐藤会長
教育総務課
担当課長

もう少し文言を大きく出すということですね。それでよろしいですか。

私たちのニュアンスとしても、町内会ですとかそういったものも含めて、開かれたという意味を入れていきたいという思いもあります。その内容についても、皆さんでご審議いただければと思います。

佐藤会長

小崎委員、もしも小崎委員のほうから提案がございましたら、どうぞ遠慮なくおっしゃっていただければと思います。

小崎委員

文言はあれなんですけれども、問8の真ん中のところで、「また、通学している子ども達とその保護者や教員だけでなく」の後です。「市民が学校につどい活動する市民活動の拠点としての役割も期待されています」ということで、このところがもう少し具体的にというか、学校だけじゃない機能を期待してもいいんじゃないかというようなニュアンスにもうちょっとしたほうがいいのかなと。

市民が学校にただ行くんじゃなくて、要するに、ここに町内会の部屋があったりとか、青少年健全育成のスペースがあったりとか、地域スポーツ活動のクラブハウスがあったりみたいな、将来、そういったものも含めたものが、地域のコミュニケーションの中核に学校がなっていくという考え方からすれば、どういうものを期待

するかという希望を聞くワードに少し変えたほうがいいのかと思います。

佐藤会長

この件についてどうですか。武藤委員、あるいは大石委員のほうから、今の小崎委員の意見につきまして何かコメントはございますか。

武藤委員

問8は夢を語るということの基本的な考え方でいくと、新たな学校づくりの基本的な考え方をある程度誘導しないと、自由な発想で書ける方は少ないのではないかと思います。調査票の2ページのところでイラストが描かれていて、そこに幾つかの軽い文言が書かれていて、そこが誘導にはなると思うんですが、そこ問8が結びつく方はそんなに多くないのではないかと思いますので、小崎委員のおっしゃったような書き方を入れるのは一つの例になっていいと思います。

佐藤会長

ありがとうございます。

大石委員、どうですか。

大石委員

私は、問8の書き方で一応一つの例になっているかなとは思いますが、もちろん小崎委員がおっしゃられた改正案でもより具体的なものになるかなと思われまので、その改正案でよいかと思います。

佐藤会長

小崎委員、よろしいですか。

小崎委員

それでいいと思います。文言については会長に一任したいと思います、さらっとじゃなくて、もうちょっと言いやすいような、ここまで言っていないんだということを示唆したほうがいいと思います。

佐藤会長

これは一度文言を整理したいと思います。

それでは、改めまして、武藤委員、お願いいたします。

武藤委員

問8が夢を語るのに対して、問9が後ろ向きなことも書けるみたいなニュアンスでお話しされていましたが、この書きっぷりだと、後ろ向きな意見が果たして出るのかなということではありますが、でも、後ろ向きな意見を出したいわけではないと思いますので、これはこのままでいいのかなと思いました。

最初のほうに戻りますが、4ページ、5ページに関しましてはすごく分かりやすくまとめていただいたのではないかと思います。

それから、質問の数が全体として減ったことは、ウェブで回答していただくことを考えると、とてもよかったなと思っています。実際に学校で保護者の方に、このところ何度かウェブでアンケートをいただいたときに、やはり長くなると回答数が下がっていき、途中でくじけるということがすごく感じられましたので、それはよかったかなと思います。

ただ、問5は抽象的で答えにくいかなと。通学時間、通学距離、安全ということが3つほど出ているんですけども、何をどう書いてもらうのかなというところが何となく分かりづらかったです。

それから、問6-1のところなんですけれども、ラジオボタンから選ぶとありますが、ラジオボタンは具体的な学校名が載っているのでしょうか。何々小学校、何々小学校、その他というような書き方なんでしょうか。そこの選択肢が出ていなかったことが気になりましたので、教えていただければと思います。

佐藤会長

今、ラジオボタンについての質問がありました、事務局のほうからお答え願え

ますか。

教育総務課
担当課長
佐藤会長

ラジオボタンにつきましては、それぞれ学校の名前が出ているような形になっております。

ありがとうございます。
武藤委員、よろしいですか。

武藤委員
佐藤会長
大石委員

了解いたしました。
次に、大石委員、よろしく申し上げます。

前は15ページ、検討部会の中で出てきたものから2ページ減らしていただきまして、少しすっきりしてシェイプアップされて、アンケートに取り組もうかなという気持ちが少しは高まる形になったかなと思います。短時間で本当にありがとうございました。

私の好みなのかもしれませんが、題名のところでサブタイトルをとということでしたが、「財産をつくろう」とか、あるいは2ページのイラストの上の「考えてみよう!」とか、さあ、何々しましょうという形の書き方よりは、財産をつくるためにとか、2ページのほうはみんなでデザインするとか、そういう形のほうが私は、ここだけ妙に語りかける感じでちょっと違和感があったので、その辺の整合性というか違和感を取ることがあってもいいかなと感じました。

また、これは事務局に質問なんですが、実際のアンケートの中で、「ラジオボタンでひとつ選択」というようにラジオボタンという言葉が出てくるんですけども、ラジオボタンという表記をそのまま使われるんでしょうか。

佐藤会長
教育総務課
担当課長
佐藤会長

事務局、お願いします。

この紙に書いてあるとおりの表記を今考えてはいます。ラジオボタンというふうな書き方にしております。

私から質問させてください。ラジオボタンはそんなポピュラーなんですか。ポピュラーではないと思うんです。知る人ぞ知るものだと思うんですけども、その辺はいかがでしょうか。

教育総務課
担当課長

確におっしゃるとおりで、ちょっととっつきにくいというか、分かりにくいというところはあると思いますので、そこは表現をちょっと変えて、例えば選択できるボタンみたいな分かりやすい表現に変えさせていただきたいと思います。その辺はこちらの配慮が足りなかったかと思います。

佐藤会長
大石委員

ありがとうございます。よろしく申し上げます。

まさに会長が今おっしゃったとおりで、ラジオボタンという言葉自体が一般的な用語ではないと感じたものですから、選択肢とか、そういう一般的な言葉のほうがよろしいかなと考えました。

あとは、学校の教員の立場からすると、やはり自由記述が多ければ多いほどいろいろなアイデアが出てくるという可能性もありますが、どうしても自由記述が多いと、それだけで書こう、答えようという回答率に若干低下が懸念されるかなと思いますので、自由記述の前に誘導的なものを今回入れていただいたことによって少しは緩和されると思うんですけども、自由記述のスペースは、最初からすくく書け

るようなスペースにするのではなくて、書けば書くほど伸びていくような形で、一、二行の形で最初は示されるのもいいかなと思いますけれども、その辺は技術的なことで可能なんでしょうか。

佐藤会長

事務局のほうでいかがですか。

教育総務課
担当課長

今おっしゃられたような形、最初は枠が小さい感じだと思うんですが、そのうち書いていけば領域がどんどん増えていくような入力方式のことをおっしゃっていると思うんですが、そのようなことはできますので、そのような形を取りたいと思います。

佐藤会長

では、大石委員、こちらに一任していただけますでしょうか。

大石委員

ありがとうございます。私からは以上です。

佐藤会長

お待たせしました。安達委員、どうぞ。

安達副会長

これは、検討部会として13日と20日、2日間にまたがってやったんですけれども、これはかなり議論を交わされた中のアンケートの流れとしては非常にまとまりがよろしいのではないかと思います。ただし、今のいろいろ話を聞いていますと、なるほどそれもそうだなと思うところは多少出てきているんですけれども、逆にこのアンケートに答える立場の人もいろいろいらっしゃるんじゃないかと思います。

でも、そういったものを全て考慮して内容的なことを見させていただくのであれば、これのほうで端的に分かりやすいんじゃないかというような率直な意見も私は持っております。あとは、このアンケートを回収した時点で、再度、アンケートの内容をもう1回把握いたしまして、こういった形になるか、これも一つの楽しみだと思います。

もう1点は、町内会・自治会といたしましては、これに関しては全面的に協力体制はつくってありますので、できる範囲の中で町内会・自治会としては協力し、携わっていかせていただきたいと思います。

佐藤会長

安達委員、ありがとうございました。

それでは、中委員、お願いいたします。

中委員

中ですけれども、コンパクトにさせていただいてありがとうございました。私は、内容的には別にこれで異存はないんですけれども、ただ1つ、先ほど小崎委員がおっしゃっていましたが地域とのつながりの部分も、地域にするのか、あるいは町内会にするのか、コミュニティーにするのか、これは広い意味で表現ができたらいいのかなと思います。

1つ事例として、今、町田第一中学校が新しく建て替えをしていますけれども、あそこには町内会の代表者も参加しまして、そういう地域のコミュニティーができる場所も確保するということを検討しているそうです。学校が地域の中心的な部分で活用、あるいは利用させていただけるのではないかと、こういう状況です。そのところについて、教育委員会の事務局から具体的に教えてもらえればと思います。

施設課長

施設課長です。よろしく申し上げます。町田第一中学校につきましては、地域の方のご意見を聞きながら設計を進めてきたところでございます。特徴としては、今まである学校開放のイメージを1歩踏み出していくということで、開放できる部分

を多くしていくというところで動いております。また、多目的なスペースを多く取るとかということもなっております。

それともう一つ、フレキシブルという考え方もありまして、柱とはりでなるべくもたせるようにして、将来の環境変化に対しても壁を抜けるという運用ができるような形を取って進めておるところでございます。

佐藤会長
中委員
佐藤会長
丹間委員

中委員、よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

それでは最後に、丹間委員、よろしく申し上げます。

私からは大きなことで2点、あと小さなことで2点ございます。

まず、大きな1点目としては、最初に遠藤委員からありましたサブタイトルについてです。遠藤委員がおっしゃったように、未来の町田っ子という形で、ぜひ町田らしさを出していただきたいと思えますし、また、大石委員もこのサブタイトルに関して、呼びかけの「つくろう」という形でないほうがよいのではないかという意見もありました。ぜひ、このサブタイトルの表現を、さらに突き詰めていきたいと考えました。

私としては、この「財産」という言葉をどう考えるかなんですけれども、財産という言葉には経済的な発想も含まれると思えます。もちろん、新しい学校づくりということは経済とも切り離せないわけですけれども、子どもたちの教育環境をどんなふうに整えていくのかということを考えてとき、私としては、本文1ページの中でもいろいろ出てきたり、先ほどアンケートの質問について議論している際にも委員の方々が自然と口にされていた言葉、つまり「夢」という言葉をサブタイトルに入れてはどうかと考えました。

この点についてもう一つは、実際の間2にもありますように、今回、保護者の調査票に関しては、小学校2年生と中学校2年生の保護者の方にお尋ねをするんだと。しかも、その方々に20年後のことをお尋ねするということから、20年後には小中学生の保護者でなくなっている可能性も非常に高いと考えています。

そういう意味では、世代を超えて夢をつないでいかなければいけないのではないかと。ぜひそこを、自分の子どもの学校生活が終わったらおしまいではなくて、むしろそういう方々が保護者のOB・OGというような形で、今後の子どもたちの教育、あるいは学校づくりに参加していただくという意味で、夢をつないでいくというようなことをぜひサブタイトルに入れていただきたいなと思いました。

今、具体的な案として考えたのは、「未来の町田っ子に夢のある教育をつなぐために」とか、「未来の町田っ子の夢ある教育のために」とかというような案が例えばあるかなと思っています。もちろん、夢で終わってはいけないうわけですから、夢を語ろうというのでもいいんですけれども、やはり夢を実現するという意味で「ために」というふうに例として出させていただきました。もちろん、財産のほうがいいというご意見もあるかもしれませんが、ほかにご意見があれば議論できればと思っています。これが大きな1点目です。

次に、大きな2点目に関しては、小崎委員から10ページの間8について、地域コ

コミュニティーのことが含まれるのかどうなのか、新たな学校づくりの取組として、例えば学校を核とした地域づくり、そういったものも今後さらに広がっていくのではないかと、そんなご提案をいただいたと思います。

小崎委員からは、学校以外の機能を複合化していくという話題を出していただいて、会長に一任ということだったんですけれども、私としては複合化の波及効果といたしまして、施設自体を複合化するというのもあるんですけれども、施設を複合化したことによって、学校教育の中で子どもたちへの関わりはもちろんですし、学校外の時間も含めて地域の方々が教育に関わっていく。つまり、社会総がかりでの教育の実現を視野に入れる必要があると考えます。

その意味では、問8の3行目と4行目については、さらに突っ込んで表現していく必要があるのではないかなと考えます。今、子どもたちと保護者や教員だけではなく、市民が集うとか市民活動の拠点と記されていますが、それだけでは弱い。それですとなかなか言葉に触発されて意見を出したくなるようにはまだなっていないかなということで、ぜひ市民の教育活動への参加、これは学校教育ももちろんですし、学校外教育も含めてですけれども、子どもたちの教育に市民が関わっていくというような、未来を想定した質問にする必要があると考えました。これが大きな2点目です。

次に細かい点としましては、1つ目は、先ほど武藤委員がおっしゃった点、9ページの問5です。この2行目がやはり分かりにくいと思いました。「子ども達の通学環境」の後に「(通学時間、通学距離、安全な通学環境など)」と書いてありますけれども、通学環境が繰り返しになっていますので、安全な通学環境については別の言葉にして、例えば登下校時の安全確保というふうにさせていただいたほうが、より保護者の方々としては答えやすいと考えました。

細かい点の2つ目は、これは全体にも関わりますけれども、やはり1文が長い箇所が多々あるかなと思います。もう少し1文を短くする。それから、漢字についても「子どもたち」の「たち」が漢字表記と平仮名表記とありますので、ご検討いただければなと。最終的に文言は会長に一任させていただきたいと思います。以上です。

佐藤会長

ありがとうございました。

私のほうから、ちょっと述べさせていただきます。この審議会は、決して統廃合を目的とするものじゃないということで皆さん一致しております。

ならば、やっぱり私としたら、今、丹間委員、あるいは遠藤委員もおっしゃっていただんですけれども、どうしても人口減とか老朽化、これは先日も話しましたけれども、何か統廃合が目的というようなことが随分強調される向きがあると思うんです。ですから、今話が出ましたように、例えば希望、それから未来などはいいと思います。サブタイトルに工夫して、未来の町田っ子をつくるわけですから、その辺の配慮をぜひ行いたいと思います。

それから、前回の審議会でもそうですけれども、我々の適正規模・適正配置はア

ンケートの重要性を我々は本当に認識しました。これに基づいて客観的な審議ができたと思います。そういう意味で、このアンケートは非常に重要だと思います。そしてまた、事務局のほうにつきましても、2回の検討部会は突っ込んだ問題提起をさせていただきました。それに随分対応していただきました。丹間委員、検討部長として本当にありがとうございます。私からは以上です。

それでは、本日、皆様からいただいたご意見を反映させて調査票をまとめさせていただきます。また委員の方々にぜひお伺いを立てますので、お願いいたします。

6 第3回審議会開催概要＋閉会

佐藤会長 それでは、本日の議事はこれで全て終了になりました。
最後に、「第3回審議会開催概要」について説明をお願いしたいと思います。事務局、どうぞ。

教育総務課 では、事務局から、次の予定を説明させていただきます。

担当課長 次回、第3回審議会ですけれども、開催日2020年6月22日月曜日、時刻は夕方ですけれども、申し訳ありません、18時半からの予定としております。会場は町田市役所2階の会議室を予定しております。

佐藤会長 ありがとうございます。次回は対面ということですね。

教育総務課 次回ですけれども、対面を予定しております。

担当課長

佐藤会長 コロナウイルスがなくなりますことを祈っております。

第3回審議会は、今ありましたように6月22日月曜日18時30分から会議を開催します。

それでは、以上をもちまして、第2回まちだの新たな学校づくり審議会を終了いたします。皆さん、どうもありがとうございました。お疲れさまでした。